

活動プログラム	No.19 新屋地区探検		
期待される効果	 地域文化	 コミュニケーション	
プログラム概要	美方高原の麓の山村地域に出向き、農家の暮らしや雪国の暮らしなど、実際に地域の方のお話を聞きことで、山村の生活について学ぶことができます。		
対象	小学生～	人数	2クラス程度
時期	通年	場所	小代区新屋地区
金額	体験料金表参照 (交流センター賃借料5,000円)	大人の人数	1クラス40人に2名以上

準備物	団体ごと	救急セット、行動食、模造紙、マジック
	服装 個人装備	リュック、カッパ(上下セパレート)、タオル、水筒、弁当 長袖、長ズボン、履きなれた運動靴、帽子、軍手
美方高原で レンタル可能な物		新屋地区マップ、水筒補給用タンク、クマ鈴、タブレット

#### 活動のタイムスケジュール (例)

時間	運営	安全上のポイント
8:30	自然の家玄関前集合 出発 現地まで徒歩90分	持ち物や服装の確認、体調チェック  道路は右側通行一列で歩く 水分補給
10:00	新屋地区交流センター到着 講師依頼の場合は地区の紹介を受ける	道迷いがないようにポイントに引率者配置 水分補給、行動食
12:00	昼食(弁当) 雨天時は交流センター	体調チェック
13:00		
15:00	新屋地区交流センター出発	体調チェック 水分補給、行動食
17:00	自然の家到着	
19:00	班ごとに探検のまとめと簡易発表	

#### 補足ポイント

- 事前に農家や雪国の暮らしについて予習しておき質問事項をまとめておきます。
- 引率者は下見の際に新屋地区を確認しておいてください。
- グループが新屋地区外に出てしまわないように、スタッフを配置してください。
- 緊急時は施設の車で対応することもできます。
- 冬季は路面凍結や民家の屋根からの落雪に十分注意するように喚起します。

活動 プログラム	No.19	新屋地区探検
-------------	-------	--------

予期されるリスク	リスクに対する対応
道迷いや遭難	地図の配布や分岐点などにスタッフを配置する。無線機や個人の携帯電話なども使うと、指導者間の連携がしやすい。
低体温症	防寒着やカッパを準備するよう伝え、適度に厚着をさせる。気温が低い場合は、温かい物を準備し休憩を短めにし、体の冷えを防ぐ。
クマや野生動物との遭遇	クマ鈴を装備させ、単独での行動をさせない。 職員はクマよけスプレーを携帯しておく。
熱中症、脱水症状	塩分や十分な水分を準備するよう伝える。服装も調節を促し、日陰での休憩をとらせる。肌を露出させず、日焼け止めの使用を促す。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビとの遭遇した場合の対応を伝えておく。また村までのルート以外には入らせない。車道の付近のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
自然の家、新屋間は安全に通行できる状態か。
新屋地区の案内や地図は最新の状態のものを使用しているか。
新屋地区に訪問日程、交流センター使用許可、地区民に周知ができているか。
引率者が事前に新屋地区を下見できているか
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
新屋地区までのルートをしっかり確認し、地区内の通行してはいけない個所の把握。
必ずグループ行動をすること。
塩分、水分補給を行いこまめに休憩をとること。
衣服での体温調整を行うこと。
ハチ、ヘビと遭遇した場合は、刺激せず距離をとること。
有事の際、グループ間で分かれて、最後に会ったスタッフを呼びに行くこと。必ず1人にならないこと。
グループで、現在地がわからなくなったら交流センターまで引き返すこと。
民家が留守の場合、開錠されていても無断で屋内には入らないこと。